

【令和4年度事業】

「荒町・連坊地区におけるニーズ・シーズのマッチングシステムの構築」

令和3年・令和4年実施事業について

1. 令和3年度事業【課題調査検証助成】

事業名：「荒町・連坊地区における地域づくりの声見える化事業」

実施団体：東北学院大学

2. 令和4年度事業【協働実践助成】

事業名：「荒町・連坊地区におけるニーズ・シーズマッチングシステムの構築」

実施団体：東北学院大学地域連携センター

荒町地区連合町内会、連坊地区町内会連合会

荒町商店街振興組合、連坊商興会、むにゃむにゃ通り商店街商興会

荒町市民センター

実施の背景

令和3年度事業の意見交換会で出された意見

「我々地域はまちづくり、学生側は地域を知ることが関心になっており、溝があるのでコミュニケーションの場を設けるべきだと思う。」

「地域と大学が一緒に関わる場合も信頼関係がないと難しいと思う。頻繁にイベント等で学生と関わりを持ち、理解を深めていくことが必要である」

「学生が地域に興味を持っていない、わからないということであれば、学生や先生に対してのミーティング等があればいいのではないかと思った」

令和3年度事業から 令和4年度事業への発展

令和3年度事業

- ✓ 荒町・連坊地域では、五橋キャンパス開学に対する期待と不安の両方を抱えている
- ✓ 地域と大学の連携・協働の希望が出されており、そのためのコミュニケーションや交流を図る場の創出が求められている。
- ✓ 地域と大学の連携・協働の希望が出されているものの、その具体的な取組内容やそれによる効果までは明らかになっていない

地域全体で当該地域の課題解決を目指す形で、
連携・協働の経験を積んでいく（経験不足を補っていく）ことが必要となる

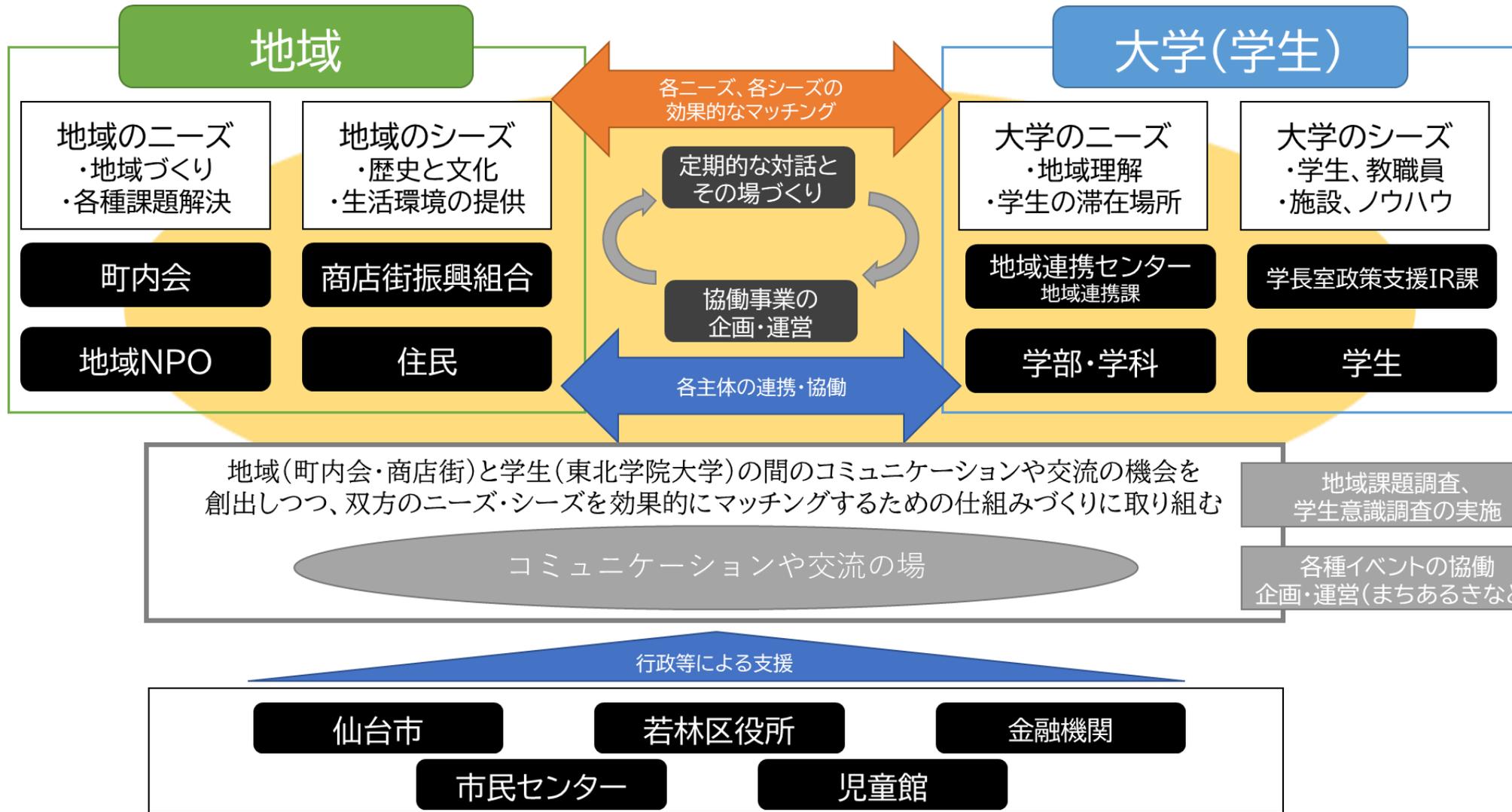


令和4年度事業

- ✓ 地域づくりに関わる諸団体の機能的な連携に向けた「場」づくり
- ✓ 恒常的に様々な課題解決に向けたサイクルを動かすための“PDCAサイクル”を当該地域全体で理解・確立し、このサイクルに基づいた経験値の蓄積を図る

「地学連携」
の
推進

令和4年度事業の概念図



令和4年度事業の概要

地域の各主体が解決すべき課題認識と、その解決に向けての協働（課題解決のプロセスの形成）

地域と大学の連携・協働に向けた 基盤（連携・協働のための場）づくり

定期的な意見交換会の実施

- ✓ 地域に関わる各種諸団体と大学関係者(学生含む)が定期的に顔を合わせ意見交換が行えるような場を構築する。
- ✓ またその場を活用した協働の地域づくりに向けての連携や各種の協働イベント等、連携の可能性を検討する

地域と大学による課題解決を図るための 協働イベントの試行

地域を対象とした協働型イベントの試行

- ✓ 意見交換会を介して出された各種の意見をもとに、荒町・連坊地域と東北学院大学のそれぞれを開催場所として、地域の課題解決の試行に向けて、PDCAサイクルを意識した形での協働型イベントを試行する
例:まち歩き、地域プロモーション、見守り、環境整備活動

採択時の付帯条件

＜採択時の付帯条件＞

- ① 町内会との連携体制をしっかりと構築したうえで、事業を開始してください。
- ② 前年度の成果や地域の課題を、大学と町内会を含めた地域との間で共有し、共有した課題認識のもと事業をすすめていただきたい。
- ③ 学生の関わりを明確にするとともに、地域と大学による協働イベントを早く進めるなど、学生が参加しやすい場づくりと地域と学生が話し合える機会を創出していただきたい。

事業の実施状況 意見交換会の実施（1）

5月17日	荒町商店街振興組合と東北学院大学地域連携センターとの意見交換会の実施
5月20日	連坊商興会、東北学院大学地域連携センターとの意見交換会の実施
5月23日	むにゃむにゃ通り商店街商興会と東北学院大学地域連携センターとの意見交換会の実施
5月24日	連坊地区町内会連合会と東北学院大学地域連携センターとの意見交換会の実施
7月5日	荒町連合町内会、荒町市民センター、東北学院大学地域連携センターとの意見交換
7月28日	事業キックオフミーティングの開催 協働団体より30名の参加
9月7日	荒町連合町内会、荒町市民センター、東北学院大学地域連携センターとの意見交換
9月9日	連坊地区町内会連合会、東北学院大学地域連携センター

* 採択時の付帯条件①「町内会との連携体制をしっかりと構築したうえで、事業を開始してください。」への対応

事業の実施状況 意見交換会の実施（2）

10月18日	情報発信ボランティアの活動に関する荒町市民センター、東北学院大学地域連携センターでの打ち合わせの実施
11月3日	荒町連合町内会、連坊地区町内会連合会、荒町商店街振興組合、連坊商興会、むにゃむにゃ通り商店街商興会、東北学院大学地域連携センター、荒町市民センター、有志学生団体「キャンパスの魅力を伝え隊」での意見交換会の実施
12月26日	荒町町内会連合会、連坊地区町内会連合会、東北学院大学広報課、東北学院大学地域連携センターでの大学ガイド2024での各地域の紹介に関する意見交換会の実施
1月19日	荒町商店街振興組合、連坊商興会、むにゃむにゃ通り商店街商興会、東北学院大学広報課、東北学院大学地域連携センターでの大学ガイド2024での各商店街紹介に関する意見交換会の実施
2月14日	荒町町内会連合会、連坊地区町内会連合会、連坊商興会、むにゃむにゃ通り商店街商興会、荒町市民センター、東北学院大学地域連携センター、学生課にて2023年度以降の協働に向けた意見交換会の実施
3月24日	荒町町内会連合会、連坊地区町内会連合会、荒町市民センター、東北学院大学地域連携センター、学生有志団体「防犯ボランティアING」での2023年度からの地域防犯活動での連携に関する打ち合わせの実施

事業キックオフミーティングの開催

2022年7月28日（木）17：00～18：00（東北学院大学土樋キャンパス本館会議室）

本事業の協働団体の関係者30名が参集し、事業内容の確認や今後の方向性などの確認を行った。



*採択時の付帯条件②「前年度の成果や地域の課題を、大学と町内会を含めた地域との間で共有し、共有した課題認識のもと事業を進めていただきたい。」への対応

事業の実施状況

地域と学生によるワークショップの開催

開催日時：2022年11月3日（木・祝） 10：00 ～ 15：00

開催場所：荒町市民センター

※荒町・連坊の各町内会、各商店街組合と東北学院大学の有志学生との
下記テーマに基づく意見交換会を開催。

テーマ①「地域の皆さんが、大学キャンパスを見学・体験するなら何処？何？」

テーマ②「地域と学生で何ができるのか考えてみよう」

テーマ③「地下鉄沿線のまちづくりを考えてみましょう」

*採択時の付帯条件③「学生の関わりを明確にするとともに、地域と大学による協働イベントを早く進めるなど、学生が参加しやすい場づくりと地域と学生が話し合える機会を創出していただきたい」への対応

意見交換会の様子（町内×学生）



午前中には、荒町・連坊の
各町内会との意見交換を実施

意見交換会の様子（商店街×学生）



午後には、荒町・連坊地区にある
3つの商店街（荒町、連坊、むにゃむ
にゃ通り）との意見交換を実施

出された意見（一部、抜粋）

地域の声

- 学生の皆さんとまち歩き
- 桜の頃、お花見なんてどうでしょう
- 商店街を学祭会場に！
- 卒論の題材提供
- アルバイトして欲しい。人手不足。
- 学院横町をつくる

....etc...

- 大学キャンパスの一部を地域住民の憩いの場に（自由スペース）
- 地域と連携したイベント・交流
- 地域のお散歩
- 学食を一緒に食べてもらう
- 土樋、五橋エリアのお祭り、職業、特産を紹介

....etc...

学生の声

事業実施の状況 地域と学生の意見交換の開催

開催日時：2023年3月23日（木） 14：00 ～ 15：00

開催場所：東北学院大学五橋キャンパス シュネーダー記念館

※荒町・連坊の各町内会、各地区社会福祉協議会と防犯ボランティア団体INGとの
「地域での見守り活動」での連携について意見交換の実施



交通マナーに関する勉強会

- ・ 2023年7月21日に仙台中央署より、学生ボランティアチームと地域の方々とで交通マナーに関する勉強会の実施



本事業の副次効果

(1) 大学主催イベントへの地域の協力

2023年10月9日開催の「第2回わがまちマルシェ」への協力（告知・出店）



本事業の副次効果

(2) 大学ガイドブック2024作成にあたっての協働

**キャンパス
周辺特集**

授業のスキマ時間や放課後は近場の商店街へ!

五橋キャンパス周辺には、仙台市街地を象徴するアーケード街はもちろん、地元民の活気にあふれる昔ながらの商店街がたくさん。地域の方々との交流が、キャンパスライフをさらに充実したものにしてくれます。

荒町地域 荒町商店街

五橋キャンパスに隣接する荒町地域は、その歴史を江戸時代の「伊達御所街(藩政時代)」までさかのぼることができ、古くからの製造を誇る地域として発展してきました。歴史的に現在の一番町二丁目(本荒町)に位置する地域でしたが、仙台城下町整備(1962年)に伴い、現在の奥州街道沿いの地域に移りました。また、豊沙門堂をはじめとするさまざまな寺社仏閣など、藩政時代の城下町の佇まいを残した地域であることから、仙台市の藩政時代の歴史に触れることができる地域です。



むにゃむにゃ通り商店街

インバウンド客の目撃で話題になった「むにゃむにゃ通り商店街」。季節を通じて地域の商賈と連携したイベントなどを企画しており、商店街のいたるところではマスコットキャラクターの「むにゃむにゃくん」が出没しています。

連訪地域

1992年に「連訪東部商賈会」として設立し、2008年に「連訪商賈会」と改称。高度経済成長期には、小学生を対象とした地産学習などの受け入れが盛んだったため「連訪」として連綿と、現在に至るまで商人の町として形を残しています。さまざまなお店が軒を連ね、飲食店も多くお昼の時間帯には本学学生も多く利用しています。

連訪商賈会

400年以上、歴史を持つ連訪。江戸時代、商賈の町に発展する権利が与えられたため「連訪」として連綿と、現在に至るまで商人の町として形を残しています。さまざまなお店が軒を連ね、飲食店も多くお昼の時間帯には本学学生も多く利用しています。

連訪地域 むにゃむにゃ通り商店街 連訪商賈会

五橋キャンパスの近隣にある連訪地域は、その歴史を奈良時代までさかのぼることができる地域です。同地域には、聖武天皇により建設された「陸奥国分寺」をはじめ多くの寺院が存し、「連訪」という地名は、国分寺門前より24の塔頭の塔頭があったことにちなみとされています。このように仙台開府当時の寺町であるものの、近年の仙台市の広範囲再開発による中高層建築物、地下鉄や広域道路などの整備がなされることで、昔ながらの景観と都市的な建築物が調和している地域です。

飲食店やカフェなども充実

土橋キャンパスや五橋キャンパスの周辺には、授業の合間にティータイムを楽しむカフェから、サークル仲間との食事にとりたりの飲食店まで、立ち寄りスポットがたくさん。お気に入りのお店もきっと見つかるはず!

喫茶店



大福屋



カフェ



パン屋



惣菜店



スムージーカフェ



学生も地域活性化に向けて活動

荒町商店街振興組合と東北学院大学が企画した七夕イベントに、本学学生と私立育生、交換留学生が参加し、七夕飾りの製作などに携わりました。このほかにも多くのイベントや活動で地域との交流を深めています。

地域連携センター

地域との連携事業についてはこちらからご覧ください。



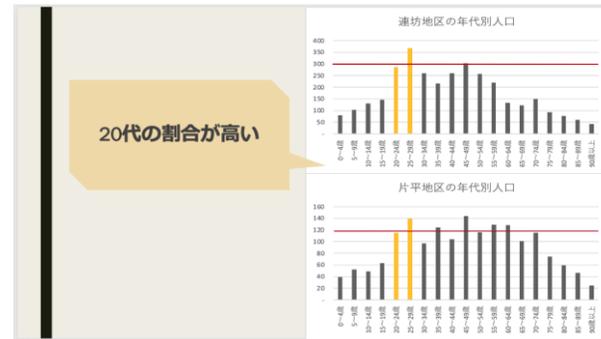


本事業の副次効果

(3) 授業での荒町・連坊地域を対象とした課題解決型学習への協力

: 学生による地域の方へのインタビューの実施

: 学生のプレゼンに対する地域からのコメント



※学生作成のスライド
(一部抜粋)

2023年度も
荒町・連坊を
フィールドに実施

3. 解決すべき課題

若年層に町内会について理解してもらう必要がある

町内会に若年層が増えない限り、問題は解決されない

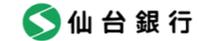
若年層が積極的に町内会活動に参加し、次世代の担い手として町内会を存続させていくことが必要

本事業の副次効果

(4) 仙台銀行まちづくり基金への申請

地域と大学による情報共有・コミュニケーションを図るため以下の運用を行う

- (1) ポータルサイトの開設
- (2) 情報誌の発行
- (3) 屋外掲示板の設置



仙台銀行まちづくり基金 2022年度(第31回)助成先一覧

助成先	所在地	助成額	活動内容及び助成金使途等
フードバンク仙台	仙台市青葉区	30万円	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロス削減と貧困のない社会の実現を目的に、コロナ禍における困窮者へ食料を無償配布するとともに生活相談支援等に取り組む。 ガソリン代等に助成する。
八木山地域再生・創生ボランティアグループ YARVOG	仙台市青葉区	30万円	<ul style="list-style-type: none"> 地域への訪問者増加を目的に、八木山の魅力をPRするまち歩きイベントの実施や「まち歩き手元地図」の作成を行い、地域活性化に取り組む。 マップ制作費等に助成する。
一般社団法人ディークレア	栗原市	30万円	<ul style="list-style-type: none"> 市内NPO法人より譲り受けた蔵書と地域内の空き家を活用して私設図書館(子どもの遊び場)をつくり、イベントを実施する等地域活性化に取り組む。 図書館の設備費等に助成する。
学校法人 東北学院	仙台市青葉区	30万円	<ul style="list-style-type: none"> 地域と大学(学生)による地学連携を推進するため、情報共有とコミュニケーションが図れるポータルサイトや屋外掲示板、情報誌の作成等に取り組む。 ポータルサイト制作費等に助成する。
小泉ユニバーサルビーチユニット	気仙沼市	30万円	<ul style="list-style-type: none"> 津波被災地である小泉の魅力発信することを目的に、住民・子どもたちの意見を取り入れたPR動画やマップを作成し、地域活性化に取り組む。 動画・マップ制作費に助成する。
つるがや元気会	仙台市宮城野区	30万円	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や沿岸部被災者が多く住む鶴ヶ谷地区を元気にする交流事業と団地に関する環境維持保全事業を行い、住民の健康維持と地域活性化に取り組む。 イベント開催費等に助成する。
一般社団法人とおがったプロジェクト	蔵王町	30万円	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化および地域の子どもたちの異文化・多様性学習を目的に、遠刈田小学校へ海外アーティストを招き、出前授業や体験ワークを実施する。 イベント開催費等に助成する。
合同会社 気仙沼八日町まちづくり	気仙沼市	30万円	<ul style="list-style-type: none"> 商店街でまちなか照明と夜の景観を活かした「夜市」を開催し、外部人口流入による地域活性化と住民のコミュニケーション促進に取り組む。 イベント広告宣伝費等に助成する。
新浜町内会	仙台市宮城野区	24万円	<ul style="list-style-type: none"> 貞山運河を中心としたまち歩きイベントの開催を通じて、来訪者増加と地域交流を促進し、津波被害を受けた地区の復興に取り組む。 イベント開催費等に助成する。



経費の執行状況

収入	科目	内訳	
	仙台市助成金	237,000円	
	自己資金	26,819円	
	合計	263,819円	

支出	科目	内訳	備考
	消耗品	44,213円	印刷用紙、付箋、模造紙
	印刷製本費	176,000円	報告書など印刷
	使用料及び賃借料	16,470円	市民センター等資料料
	通信運搬費	27,136円	切手、レターパック
	合計	263,819円	

当初予算額 : 1,328,000円		収支決算額 : 263,819円		差額 : 1,064,181円
仙台市助成額 (採択時)	自己資金 (採択時)	仙台市助成額 (収支決算時)	自己資金 (収支決算時)	助成金額差額 (仙台市返還額)
119,500円	133,000円	237,000円	26,819円	958,000

現在の連携状況 ： 学生ボランティア活動の実施



現在の連携状況 ： 学生による地域情報の発信



学生ボランティアによる地域の取材と情報の発信



https://www.instagram.com/itsutsubashi_tsushin/

今後の連携

- (1) 荒町・連坊での学生によるボランティア活動や様々な企画の継続実施
 - ⇒ 各種のお祭りなどの地域行事への参加
 - ⇒ 荒町市民センター、連坊コミュニティセンターでの学生企画の実施

- (2) 地域と大学が連携した地域の課題解決策の提案
 - ⇒ 宮沢橋根白石線の連坊橋高架下の利活用に向けた連携
 - ⇒ 学生に依る荒町「元気ひろば」の利活用プランの考案

and more ...

「地学連携」
の
推進